

# 1. 本研究会の意義、背景、目的、研究手法及び注目したテーマ

## (1) 意義

本研究会は、公益社団法人食品容器環境美化協会が主催し、市民と行政が協働で進める新しい「まち美化プログラム」であるアダプト・プログラムについての調査研究のために行われた。

こうした調査研究によって、アダプト・プログラムの推進のあり方及びそのための課題について多角的な検討が可能となったことは重要な意義を持つと考える。

## (2) 背景

アダプト・プログラムは一定区画の公共の場所を、市民がわが子のように愛情をもって環境美化を行い、行政がこれを支援するものである。近年では市民による団体に限らず、企業などによる積極的な関与が行われている。これらの活動は、日本においても短くない歴史を持つ。

一方で、ここ一、二年述べられることの多くなった言葉に「新しい公共」という概念がある。「新しい公共」とは、2010年6月4日に行われた第8回「新しい公共円卓会議」において行われた「新しい公共」宣言によれば、「人々の支え合いと活気のある社会。それをつくることに向けたさまざまな当事者の自発的な協働の場」であり、「すべての人に居場所と出番があり、みな人が役に立つ喜びを大切にする社会であるとともに、その中から、さまざまな新しいサービス市場が興り、活発な経済活動が展開され、その果実が社会に適正に戻ってくる事で、人々の生活が潤うという、よい循環の中で発展する社会」とされる。

これらの定義によれば、アダプト・プログラムの活動は、まさに「新しい公共」の姿であり、日本の社会を先導するものであると考える。

## (3) 目的

本研究会は上記の認識に基づきつつ、アダプト・プログラムをさらなる発展にむけて推進することを目的とする。そのため、アダプト・プログラムの現状を分析し、その可能性及び課題を明らかにすることにより、アダプト・プログラムの的確な発展のあり方を示していく。

#### (4) 方法

本研究会では上記の目的を実現するため以下に基づき研究を進めた。

- アダプト・プログラムを施策として実施している地方自治体の担当職員から選抜した者をメンバーとし、社団法人食品容器環境美化協会メンバーをオブザーバーとした意見交換。
- アダプト・プログラムに関わる地方自治体調査、市民団体調査
- アダプト・プログラムを施策として実施している地方自治体への訪問調査
- アダプト・プログラムをテーマとしたシンポジウムの実施

#### (5) 注目したテーマ

2010年度の本研究会では、2009年度までの基礎的な現況分析に基づき、アダプト・プログラムの評価及び、アダプト・プログラムを担う人材の育成に注目した研究活動を行った。